

電話ロールプレイテスト【生徒用・課題カード】

Class _____ No. _____ Name _____

 **ゴール:** 電話で用件を伝え、たのみごとを1つして、会話を自然に終わられる

場面 友だちの家に電話。宿題の範囲を聞き、ノートを見せてほしいとたのもう。顔が見えない＝声だけが頼り！

流れ: ①Hello. This is ～. May I speak to ～? ②用件: What is our math homework? ③依頼: Can you show me your notebook tomorrow? ④締め: Thank you! See you tomorrow.

相手役はときどき Sorry? と聞き返します。あわてず言い直そう。

準備 テストまでにすること(授業1回)

電話の決まり文句(This is ～ / May I ～ / Hold on)を音読→背中合わせ(顔が見えない状態)でペア練習2回。

本番 時間: 1組90秒 / 評価: 4観点×3段階(12点)

達成	相手に伝わったか・目的をはたせたか(いちばん大事！)
正確さ	今回の言語材料が正しく使えたか
流暢さ	止まらずに続けられたか(完ぺきでなくてOK、リカバリーも実力)
態度・やり取り	あいづち・聞き返し・相手への質問があったか

✓ 聞き返し(Pardon? / One more time, please.)は減点ではなく加点。本物の会話の技だから、遠りよく使おう。

ねらい このテストは何を・なぜ測るのか

測る力	視覚情報なしで、音声だけで用件を伝え合う力(音声コミュニケーションの独立)
なぜ必要か	表情やジェスチャーに頼れない電話は、発音・明瞭さ・確認表現の価値が最大化する場面。背中合わせの実施で「伝わらない不安→言い直して伝わる喜び」を経験させ、音声だけの英語(リスニング・将来のオンライン会話)への耐性を作る。

評価 ループリック(B列＝評価規準「おおむね満足の姿」。採点前に一読してから始める)

達成	A(3点) 用件・依頼・締めがそろい、聞き返しにも自然に対応	B(2点)＝評価規準 用件と依頼が伝わり会話を終えられた	C(1点) 用件が伝わらない
正確さ	A(3点) May I / Can you等の形が正確	B(2点)＝評価規準 誤りはあるが依頼は通じる	C(1点) 形が崩れて通じない
流暢さ	A(3点) 電話らしいテンポ	B(2点)＝評価規準 間はあるが完走	C(1点) 沈黙で切れる
態度	A(3点) 声だけで伝える工夫(はっきり・ゆっくり)	B(2点)＝評価規準 聞こえる声で対応	C(1点) 声が届かない

✓ C→Bの手立て: 条件を1つ減らして再挑戦の機会を(例: メモを見てよい・時間を短く)。再テストはB上限にせず、できた姿をそのまま評価する

運用 当日の流れ(2コマ)

1	ループリック(このページ)のB列を一読してから開始——「おおむね満足の姿」を採点の物差しとして頭に置く
2	課題カード(1ページ目)の場面と評価観点を全体で確認(2分)。聞き返しは加点、と必ず伝える
3	順番票にしたがって実施(1組90秒)。採点はその場で記録シートに○をつけるだけ
4	待ち時間の生徒には観察メモ(よかった表現を1つ書く)または自習課題を指定
5	全員終了後、よかった例を2～3、名前を挙げてほめて締める(次回への空気づくり)

☆運用のコツ 背中合わせで実施すると「顔が見えない電話」が再現できます。聞き返しは台本に固定で1回入れる——リカバリーこそ電話の実力です。

記録

その場で○をつけるだけ(A=3 B=2 C=1)

名前	達成	正確さ	流暢さ	態度	計	メモ(次への一言)
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	
_____					/12	

✓ 印刷して名簿順に並べておくと、テスト中の記入が3秒で済みます。「メモ」は返却時のフィードバックの種——1語でOK。